

パンドラウイルス： 融けた北極から古代の細菌が 放出されている-どれだけ懸念 すべきか？



科学者たちは最近、何万年の間、シベリアの永久凍土の中に埋もれていたいくつかの大型ウイルスを蘇らせた。復活させた最も新しいウイルスは2万7千年前のもので、そして最も古いもの-パンドラウイルス-は約48,500年前のものであった。これは、これまで復活したウイルスの中で最も古いものである。世界が温暖化し続ける中、永久凍土の融解により何千年も凍結していた有機物が放出されており、その中には今でも繁殖可能なバクテリアとウイルスが含まれている。

記事参照：Pandoravirus: The melting Arctic is releasing ancient germs – how worried should we be? - ArcticToday (2022.12.14/Arctic Today)

→Fishing vessels are seen in the port of Nuuk in a 2019 file photo. (Krestia DeGeorge)

グリーンランド、ロシアとの 漁獲枠交換を中止



グリーンランドは2023年、ロシアとの漁業協定を利用してバレンツ海でタラやその他の魚を漁獲することはなく、ロシア漁船もグリーンランド海域のオヒョウなどの通常漁獲枠を利用できないようにする。グリーンランドとロシアが漁獲枠の交換に関する正式な協定を結んだ1992年以来、来年度の漁獲枠交換で合意に達しないのは初めてのこと。ロシアのウクライナ戦争に対する無言の抗議が含まれている可能性が指摘される。

記事参照：Greenland halts fisheries quota swaps with Russia - ArcticToday (2022.12.14/Arctic Today)



北極はより暑く、より雨が多くなっている



北極圏の気候変動を追跡する米国海洋大気庁の年次報告書によると、北極圏の季節は変動し、この地域はより暑くなり、より雨が多くなっている。北極圏の大気、陸地、海は急速に温暖化し、山火事や台風を含む異常気象がニュー・ノーマルになりつつあると、米国海洋大気庁の科学者は述べている。

記事参照：The Arctic is getting hotter and rainier, the latest report card says - ArcticToday (2022.12.14/Arctic Today)

ノルウェーとフィンランド、ロシアの国境通行に大きな乖離

フィンランドが9月末に観光ビザでの入国を制限した後、ロシア人のシェンゲン-ヨーロッパへの渡航経路が大幅に変更された。現在では、ノルウェーを経由して北上する交通が多くなっている。

記事参照：Huge divergence between Norway and Finland in Russian border traffic | The Independent Barents Observer (thebarentsobserver.com) (2022.12/7/The Barents Observer)

—An artist's reconstruction shows the Kap Kobenhavn formation in northernmost Greenland two million years ago, at a time when temperatures were significantly higher than northernmost Greenland today, in this undated handout image obtained by Reuters on December 6, 2022. (Beth Zaiken / Handout via Reuters)

200万年前の最古のDNAが明らかにしたグリーンランドの失われた世界



科学者たちは、北極海のフィヨルドの河口付近で掘られたグリーンランド最北端の堆積物から、記録上最も古い約200万年前の動物、植物、微生物のDNAを特定し、この辺境に驚くべき失われた世界があることを明らかにした。研究者たちは、マストドン、トナカイ、ウサギ、レミング、ガンなどの動物、ポプラ、白樺、スジャなどの植物、バクテリア、真菌などの微生物のDNA断片が検出されたと発表した。マストドンは象の仲間と、約1万年前の氷河期に他の多くの大型哺乳類とともに絶滅するまで北アメリカや中央アメリカを闊歩していた。今回の発見は、マストドンがこれまで知られていたよりも広い範囲に生息していたことを示す。

記事参照：Oldest DNA on record — 2 million years — reveals Greenland's lost world - ArcticToday (2022.12.8/Arctic Today)



北極の温暖化は、次のパンデミックを引き起こすのか？



北極圏の大地や海水が温暖化し、病原体が放出される可能性がある。また、気候の変化により多くの生物が極地に移動するため、こうした状況はウイルスの流出の機会を増やす可能性がある。最近の研究により指摘されている。しかし、北極圏から病原体が出現する可能性はあるものの、他の場所で新たな脅威が出現し、それが北極圏に移動するリスクの方が大きいと専門家は指摘している。

記事参照：Could a warming Arctic unleash the next pandemic? - ArcticToday
(2022.12.9/Arctic Today)

スウェーデン当局、サーミ人の遺骨・遺物の返還を促進へ



スウェーデンは、18人の遺骨を先住民サーミ人に返還し、国内の博物館や大学からさらに多くの遺物を返還するよう専門家に依頼すると発表した。スウェーデン議会は1977年にサーミ人を先住民族として認めたが、国家との関係はしばしば抑圧的であった。スウェーデンのMats Persson教育相は「サーミ人は歴史的に、特に墓の略奪や人種生物学研究のために行われた調査などで苦しんできた」と述べた。

記事参照：Swedish authorities to facilitate return of Sámi remains and objects - ArcticToday (2022.12.19/Arctic Today)

北極圏レポートカードは、北極圏で起こることが世界の他の地域にも影響を及ぼすことを示す



北極圏では、旅行や狩猟、日々の決断を下す自由が、1年の大半を占める寒さと凍結状態に大きく左右される。しかし、北極圏の温暖化に伴い、こうした状況は急速に変化している。北極圏では、これまで雪が降っていた場所に雨が降ることが多くなっている。かつては秋の嵐による浸食から海岸線を守っていた海氷の形成が遅れつつある。また、川や湖の氷が薄くなり、スノーモービルでの移動がますます危険なものになってきている。また、グリーンランド氷床は淡水と氷を海へ送り出し続け、世界の海面を上昇させている。

記事参照：The Arctic Report Card is a reminder that what happens in the Arctic affects the rest of the world - ArcticToday
(2022.12.16/Arctic Today)



Gullies created by thawing soil drain a lake in the Arctic Coastal Plain of northern Alaska. (Christian Andresen and Mark J. Lara / CC BY-ND 4.0)

ロシア連邦議会、北極・極東ヘクタールの開発を簡素化へ



ロシア連邦議会下院は第二読会で、北極ヘクタールおよび極東ヘクタール計画で受け取った土地に住宅を建設するための書類手続きを簡素化する法律案を採択した。同法案は、2021年12月に州議会に提出されたもの。ロシアの北極圏をはじめとする北方、シベリア、極東の領土における土地区画の割り当ての仕様に関する法律や、都市計画法を改正することを提案している。

記事参照：State Duma to simplify development of Arctic and Far Eastern hectares (2022.12.14/the Arctic)

ノバテック旗艦プロジェクト 北極圏タンカートラブル



北極圏LNG2プロジェクトのために氷海クラスの船団を建造しているZvezda造船所は、最初の船を引き渡せるのは早くても2024年以降になるという。Kommersant紙によれば、他の4隻の船についても同様の遅延が発生する。造船所を所有する国営石油会社ロスネフチと造船所のパートナーは、これまで韓国から多くの技術を導入してきた。しかし、ロシアのウクライナ侵攻を受け、それは中断された。ウクライナ侵攻により国際的な制裁を受け、ロスネフチは大きな打撃を受けた。

記事参照：Arctic tanker trouble for Novatek's new flagship project | The Independent Barents Observer (thebarentsobserver.com) (2022.12.16/The Barents Observer)

北極域は、気候変動の影響により大きな変化に直面しています。その変化は、自然環境のみならず、政治経済、社会、北極先住民及び住民の生活や暮らしにも及び、それらが複合的に絡み合った形で相互作用しています。こうした変化への適応、適応能力やレジリエンスの育成のプロセスは、複雑で予測困難な社会的課題であると同時に、現地住民のwell-beingを獲得するための機会となっています。

『北極域実践コミュニティ VOICES from the ARCTIC』は、北極域実践コミュニティの情報発信の活動の一環として、北極域の多岐にわたる社会的課題やその解決に向けた取組に関連するニュースを集めて、ダイジェストしたものです。北極域の社会的課題と世界的な課題との関連性を示すため、国際連合『持続可能な開発目標 (SDGs)』の17の目標との対応関係を各ニュースに付しています。Vol.19は、2022年12月中旬のニュースを主に掲載しています。

発行元：ArCS II 国際政治課題 北極域実践コミュニティ事務局
 監修：大西富士夫（北海道大学北極域研究センター）
 E-mail：tdcop@arc.hokudai.ac.jp
 WEBサイト：https://tdcop.arc.hokudai.ac.jp/

